

2019 年 度 事 業 報 告 書

I 事 業 の 概 要

1. 遠山記念館の維持運営

- ・遠山記念館の維持運営については、従来の方針を踏襲した。

2. 美術品、その他資料の収集、保管並びに一般公開

(1) 美術品、その他資料の収集、保管

小林桂子 様 世界の染織品、小林桂子氏ほか現代作家の織物作品及び試作品、染織用道具等 計 156 件

遠山慶子 様 ドレス、靴等 合計 11 件

三浦鴻 様 古代中南米染織品、土器、石製品、骨製品、土製品、現代中南米染織品、現代インドネシア石製品 合計 387 件

(2) 美術品、その他資料の一般公開

(イ) 展 観 の 日 程

回	期 間	展 観 名	展 観 内 容
1	4月2日(火) ～5月6日(月・祝)	春季館蔵名品選	遠山記念館は、昭和45年(1970)の開館以来、貴重な文化財の収集・保管に務めてきた。本展では館蔵の名品の中から、弘法大師筆と伝えられる重要美術品「法華経普賢菩薩勸発品」、岡本秋暉の秀作「桜花雉子図」、古代中国の銅器「饕餮文尊」を中心に展示した。また併せて新たに寄贈を受けた遠山元一ゆかりの作品を紹介した。
2	5月18日(土) ～6月30日(日)	茶道具と華布	華布 - かふ - とは、主に綿布に花鳥や人物・動物文様を色鮮やかに表した染布、「更紗(さらさ)」の異名である。室町時代以降、交易によりインドを始め世界の更紗が多数将来され、衣料や小物、茶道の包み布等に用いられ人気を博した。今回は茶道具とともに館蔵の世界の更紗、日本の「和更紗」を産んだ文化的背景を紹介した。
3	7月13日(土)～ 9月1日(日)	遠山記念館の オリエント美術	遠山元一は当館開館前後にオリエントの蒐集をはじめ、その中にはファラオをかたどった中王国時代の「王座像」、美しい彩色の残る新王国時代の「供養碑」など、優れた作品が含まれている。また元一は、エジプトやイランで制作された、古代オリエントのガラス製品も蒐集した。昨年度は東京理科大学の協力で蛍光X線調査を行い、その学術研究の成果を併せて紹介した。

回	期 間	展 観 名	展 観 内 容
4	9月14日(土)～ 10月20日(日)	特別展 古筆招来	平安時代の仮名書を代表する館蔵の高野切・寸松庵色紙・石山切に、それぞれの連れとなる名筆を外部より借用し、特に30年ぶりの展覧会出品となる寸松庵色紙、石山切も出品した。古筆切の歌集本文の位置は書き始めと、中頃、終盤では書きぶりも変化するので、その表現の多様性を紹介した。
5	11月2日(土)～ 12月15日(日)	ヨーロッパの 美しい意匠	祭礼用司教服(フランス)からマリア・モチガ・ガレンガのイブニングドレス(イタリア)まで、18世紀から20世紀前半にかけてのヨーロッパの服飾を中心に展観した。華やかな織り、精緻な刺繍、美しいレースなど、それぞれの時代を代表する服飾技術の粋に焦点を当て、またフランドルのタペストリー(16世紀末)などの工芸品、また、アメリカの婚礼衣装(19-20世紀)も展示した。
6	2020年 2月8日(土)～ 3月1日(日)	雛の世界	江戸期に開花した人形文化は、日本独自の雛人形を母体として、多種多様な人形を生み出してきた。享保雛、次郎左衛門雛、古今雛や高さが2cm程の芥子雛、また近代の名工の作品など、様々な雛人形の他、嵯峨人形、御所人形、賀茂人形、抱き人形などを展示し、日本の人形の歴史を紹介した。

(注) 休館日 ・ 定例休館日 毎週月曜日(当日が祝祭日の場合は翌日)
・ 展示替期間および12月21日～1月7日の年末年始
・ 3月2日～3月31日の新型コロナウイルス対応による閉館期間

(ロ) 開 館 状 況

- ① 開館日数 277日
② 入館者数 9,664人

(単位：人)

区 分	今年度	前年度	増減差
大 人	4,960	7,294	-2,334
学 生	136	137	-1
団 体	1,483	1,823	-340
※他	3,085	3,650	-565
合 計	9,664	12,904	-3,240

※他：招待、小人、優待、無料、YFC・県教委・障害者

③ 入館料収入

(単位：円)

今年度	前年度	増減差
5,515,896	7,730,140	-2,214,244

(3) 収蔵作品の修復活動

該当事項なし

(4) 収蔵作品の新規評価活動

4月3日 オリエン特作品調査 慶応大学杉本智俊教授

1月19日、1月22日 日本漆器約30点の評価を東京国立博物館福島氏、根津美術館永田氏に依頼
(別紙参照)

3. 展示等に関連する講演会、教育普及関連の催事の開催

(1) 展示関連の催物、ワークショップ、ギャラリートーク等

2019年

4月20日 土曜講座「瓢箪茶入「閨」について」

4月28日 旧遠山家住宅 重要文化財指定 記念シンポジウム

5月3日 手回し蓄音機によるSPレコード鑑賞会

6月15日 土曜講座「茶の湯と華布と一更紗受容の歴史をたどる」

9月22日 古筆招来講演会

10月13日 古筆招来記念茶会

10月14日 古筆招来講演会

11月3日 手回し蓄音機によるSPレコード鑑賞会

2020年

2月9日 地域子ども教室

2月23日 雛の世界投扇興 お楽しみプラン2階使用

(2) 投扇興を楽しむ会 毎月1回第2日曜日 開催 計12回開催

(3) 遠山邸2階の特別公開

4月7日、5月18日、6月1日、9月28日、10月26日、11月16日 以上6回

4. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 博物館実習の受託

期間 8月27日から9月4日までの8日間

実習生 川村学園女子大学、十文字学園女子大学から学生2名を受入れる。

(2) 美術品の貸出協力

	貸出先	展覧会名	貸出期間	貸出作品
1	ワシントンショナル・ギャラリー	日本美術に見る動物の姿	6月2日～8月18日	1. 納戸縮緬地飛鶴風景鯉の滝のぼり模様小袖(振袖) 2. 納戸平絹地腰替り馬模様着物(中裁) 3. 黒縹子地松竹梅鶴亀模様鶴亀掛下帯
2	大倉集古館	桃源郷展－蕪村・呉春が夢みたもの－	9月12日～11月17日	1. 呉春「武陵桃源図巻」 2. 山本梅逸「青緑桃源図」
3	京都国立博物館	流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美	10月12日～11月24日	佐竹本三十六歌仙絵 大中臣頼基

(3) 美術品の貸出協力助成金、奨学金の支払い

- (イ) 遠山記念館芸術・学術等助成金として、「埼玉県文化振興基金」に100万円を拠出した。
また、公募申請の結果、1団体（埼玉県立近代美術館）に50万円支払った。
- (ロ) 遠山記念館留学生奨学金として、「埼玉県グローバル人材育成基金」に100万円拠出した。
- (ハ) 遠山記念館障害者のための文化芸術振興助成金として、「埼玉県シラコバト長寿社会福祉基金」に100万円拠出した。

5. 学芸員による主な研究活動

(1) 口頭発表

依田徹「茶の湯文化学会東京例会 松平親良と瓢々庵について」（6月29日、五島美術館）

依田徹「東洋陶磁学会 遠山記念館蔵「瓢箪茶入 銘閨」について—瀬戸焼「春慶」茶入の一例として」（12月7日、青山学院大学）

(2) 外部講座

依田徹「埼玉県茶道連盟 皇室と茶の湯」（4月21日、ラフレさいたま）

依田徹「玄々齋と江戸の茶の湯」（6月19日、青山グリーンアカデミー）

依田徹「裏千家教授講習会 近代数寄者の茶」（7月12日～16日、裏千家東京道場）

依田徹「講演 近代の茶道と盆栽—「美術」との関係から—」（8月18日、中條文化財団）

依田徹「式正織部流講演 近代の茶の湯、そして今後」（9月16日、市川市文化会館）

松村久代「(公財)文京アカデミー 文の京地域文化インタープリター養成講座」（10月19日、11月2日、11月16日）

依田徹「東京文化財研究所研究会 明治文化と井上馨」（1月21日、東京文化財研究所）

久保木彰一「非常勤講師（日本美術史担当）」（大東文化大学）

依田徹「非常勤講師（茶道史担当）」（昭和女子大学）

依田徹「外部評価委員（茶道具担当）」（埼玉県歴史と民俗の博物館）

松村久代「さいたま市岩月人形博物館準備室人形資料等選考評価委員会委員」（さいたま市）

松村久代「さいたま市岩槻人形博物館開設準備委員会委員」（さいたま市）

松村久代「さいたま市盆栽美術館資料等選考評価委員（歴史民俗資料担当）」

松村久代「非常勤講師（博物館実習・博物館展示論・博物館情報・メディア論担当）」
（跡見学園女子大学）

(3) 刊行物等

依田徹「文化財保護の先駆者・定信」『なごみ』474号、淡交社、6月1日

依田徹『マボロシの茶道具図鑑』淡交社、9月30日

依田徹「依田徹「渡辺驥と明治東京—「無物庵」の額字を中心に」『茶の湯文化』32、茶の湯文化学会、10月15日

依田徹「不白流の広がり」『江戸の茶の湯』根津美術館、11月16日

依田徹「東京の茶の湯史」『なごみ』481号、淡交社、1月1日

依田徹「明智光秀の茶道具」『淡交』917号、淡交社、2月1日

(別紙) 収蔵作品の新規評価活動

・オリエント作品調査

慶応大学杉本智俊教授に作品を実見していただいた。

主な新発見として、テラコッタ類、粘土板について、制作年代を一部修正した。

・日本漆器約 30 点の評価

東京国立博物館福島氏、根津美術館永田氏に作品を実見していただき、下記の評価額を付けていただいた。

(単位：万円)

	作品名称	作者	制作年代	東京国立博 物館福島氏	根津美術 館永田氏	評価額 (両者 金額を平均)
1	模造 片輪車螺鈿手箱	象彦	昭和初期	300	500	400
2	千鳥蒔絵鶉籠			120	200	160
3	蒔絵箏形硯箱			80	150	115
4	流水桜漆絵十種香道具	都築幸哉		220	400	310
5	四種盤 (香遊戯盤)			50	180	115
6	松竹梅椿菊蒔絵香道具		江戸中期	300	300	300
7	扇面葵紋散香筆筒		江戸中期	1200	600	900
8	梅鶯蒔絵六角香箱		江戸後期	120	200	160
9	牡丹蝶蒔絵香箱			150	300	225
10	梅若松蒔絵阿古陀香炉			80	150	115
11	鳳凰唐草鎌倉香盆			10	5	7.5
12	秋草蝶蒔絵瓢形茶箱			300	100	200
13	菊水蒔絵茶箱			200	180	190
14	讓葉裏白蒔絵茶箱	池田泰真	明治期	300	400	350
15	小倉山蒔絵中次	小島漆壺斎		80	80	80
16	夢字蒔絵金輪寺	小島漆壺斎		80	70	75
17	夜菊棗 一双			240	180	210
18	遠州好春慶塗袋棚	佐野長寛	江戸後期	300	200	250
19	初音蒔絵六角香箱		昭和初期	80	200	140
20	滝蒔絵菱形香箱	象彦	昭和初期	200	150	175
21	桜蒔絵三重香箱	象彦	昭和初期	100	180	140
22	手毬盃	柴田是真		100	100	100

総計 4717.5 万円